



水キラキラ 町いきいき入善

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 140

2007年1月27日



心も新たに元旦マラソン

12
月
定
例
会

入善中学校 大規模改造に着手 (補正予算)	2 P
障害者自立支援法の円滑な運用を (議員提出議案)	3 P
平成17年度決算を認定 (決算特別委員会)	4 P
学校給食について決断する時期では (委員会レポート)	5 ~ 7 P
篠山市の合併成果を研修 (委員会視察)	8 P
町政を問う 代表質問・一般質問 (7議員)	9 ~ 15 P
入善町に移り住んで・入善のむかし話	16 P

ホームページでもご覧になれます。 <http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>

入善中学校体育館棟 耐震補強・大規模改造に着手

12月議会の
あらまし

12月議会は、5日から15日までの11日間開会し、初日に平成17年度決算を認定した。また、一般会計などの補正予算4件、入善町食育推進条例の制定などの議案3件を審議し、すべて可決した。

また、陳情2件を審査したほか、8日と11日に代表・一般質問が行われ、7人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

補正予算の概要

一般会計

入善中学校の整備費に

2億2100万円

入善中学校体育館棟の耐震補強・大規模改造工事を1年前倒しして着手する。

また、今後も普通教室棟などの耐震化も20年度までに順次進める。

稲作機械などの購入に助成

1633万円

地域農業の担い手である認定農業者などに、稲作機械購入に対し、県・町で2分の1を助成する。

その他に、上原保育所の修繕を行い、吉原海岸公衆トイレ整備や集落営農組織の法人化のために助成を行う。

このことにより、一般会計で2億8407万円の補正となり、総額は100億4646万円となった。

条例の制定など

入善町食育推進計画の作成とその実施のための「入善町食育推進会議条例」を県下に先駆けて制定した。

ほか「入善町重度心身障害者等医療費助成条例」の一部改正を行った。

また、後期高齢者医療制度の実施のために、富山県内全市町村による広域連合設置の規約を可決した。



親子で楽しむ地場産食材のカレー（食育フェスタ）

議員提出議案

陳情

◎ 障害者自立支援法の円滑な運用を求める意見書

サービス利用の実態を把握し、利用者負担の軽減を図るなど、障害者自立支援法が円滑に運用されるよう、国に意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

◎ 地方税財源の充実・強化を求める意見書

真の分権型社会実現のため、必要な地方税財源が確保されるよう、国に意見書の提出を求める。

賛成全員で採択とした

◎ 防災・生活関連を中心とした「公共事業」への転換と公共サービスの民間化に反対する陳情書

陳情者 全建設労働組合北陸地方本部
黒部支部

公共サービスの民間化に反対するなど、国に意見書の提出を求める。

継続審査とした

◎ 障害者の福祉・医療サービスの利用に対する「定率（応益）負担」等の見直しを求める国への意見書についての陳情書

陳情者（社）富山県身体障害者福祉協会
他5団体

サービス利用の「定率（応益）負担」を見直すことなど、国への意見書の提出を求める。

不採択とした



障害者の作業所「にいかわ苑」

選挙管理委員

平成18年12月25日で任期満了となる選挙管理委員を選挙した結果、次の4人が当選した。



岩場勝郎氏
入善町入職



島瀬秀夫氏
入善町笹原



長谷川一郎氏
入善町新屋



窪野隆弘氏
入善町野中

決算特別委員会レポート

～平成17年度決算を認定～

決算特別委員会が、9月15日から11月15日までの間に7回開催され、11月2日の第6回委員会において採決された。一般会計は賛成多数、その他の6特別会計については賛成全員で可決した。

決算審査の総括

納税率は県下トップクラス

一般会計の歳入の25・4%を占める町税の徴収率は98・2%と、県内他市町村に比較してトップクラスであり、町民の協力に感謝する。

歳入の24・1%を占める地方交付税は、「三位一体」改革の影響が懸念されたが、おおむね順調に確保された。

町債が歳入の18・6%であり、事業の選択、借金依存体質からの脱却を強く望む。

サンリッツ、スマートICに期待

歳出総額のうち人件費、公債費など義務的経費の占める割合は、37・6%であるが、退職者の補充抑制、行政経費の節減で大幅減となっており評価する。

反面、投資的経費は前年度に比較して、20億円余りの増となっている。これは企業立地関連事業、スマートICの用地取得によるものである。

サンリッツの誘致は、雇用の拡大に寄与し、スマートICの建設は今後の企業誘致、町づくりのキーポイントになることを期待し評価する。

深層水事業の検討を

これらの取組みを光の部分とするならば、影の部分に海洋深層水事業の成果が指摘される。

本事業は、平成10年度より着手されて以来、関連事業費16億円を投資したが、成果については今一步という感が強い。

今後の事業のあり方、財政支出などを検討する必要がある。

健全な財政運営

本決算による町の財政指標では、単独町政を選択して2年目の町としては、健全な財政運営である。

なお、審査の過程で各委員から出された意見は、町税の徴収、職員研修のあり方、除雪対策、農地の地力増強、海洋深層水事業、いじめ問題、医療費問題など多岐にわたっており、町当局は、今後の行政運営に反映されるよう要望する。



施設の活用状況を点検（下山芸術の森宿泊棟）



操業を開始したサンリッツ

常任委員会レポート

産業教育 常任委員会

入善中学校体育館棟
大規模改造工事の見
通しは

Q 入善中学校体育館
棟の耐震補強・大
規模改造工事に2億2
100万円予算化され
たが、来年度以降の見
通しはどうか。

A 来年度予定してい
た工事が、今年度
前倒して予算付けされ
たもの。

来年度以降の予算付
けも国、県と協議し見
通しは立っている。

Q 工事中は体育館棟
の利用が出来なく
なる。どう対処するの
か。

A 工事は3月中に発
注する。連休明け

から夏休み中に終えた
いと考えている。

その期間利用出来な
くなるが、よく説明し、
理解していただくよう
努力する。

学校給食について
決断する時期では

Q 学校給食について
結論が先送りされ
ている。そろそろ決断
する時期ではないか。

A 今年度中に学校給
食検討委員会の最
終報告をいただき、そ
の意見を尊重して決断
したい。

フラワーセンター
管理運営費の補正は

Q フラワーセンター
の管理運営費の補
正は何か。

A 忙しい時期の人夫
賃が不足したため
の補正である。

こんな意見も



だれもが楽しめるパークゴルフ

◎青野自然公園パーク
ゴルフ場は非常に良く
管理されている。

良い状態を維持する
ための管理料として、
プレーに対し利用料金
を考えてはどうか。

地元建設業者が入れ
るよう考慮していただ
きたい。

◎今年の夏、黒東小学
校耐震補強工事の際、
配送給食のアンケート
を取った。

◎今年度末には、待望
の「うるおい館(仮称)」
建設が着手される。

今一度、黒東小学校
での学校給食のアンケー
トを取り、結果を検討
してほしい。

常任委員会レポート

総務 常任委員会

退職手当組合負担金が多いがその内訳は

農業担い手助成金の
該当法人は

Q 地域農業担い手育成
助成補助金の該
当法人はどこか。また、
選定基準はどうか。

A 当初予算では「ア
グリゴールド矢木」
と「ファームエースひ
ばり野」であり、今回
の補正では「ドリーム
ファーム」と「青島営
農組合」である。
事業主体者からの申
請に基づくものであり、
県の事業として制度化
している。
事業費限度額は27
00万円で、県、町あ
わせて2分の1を補助
する。
法人化や面積要件な
どのしほりがあり、相
談があれば協議する。

Q 退職手当組合負担
金の補正予算が多
い。早期退職者の内訳
は。

A 早期退職者は一般
事務2名、保育所
6名、消防1名の合計
9名である。

Q 定年退職者と採用
計画はどうか。

A 定年退職者は一般
事務4名、保育所
2名、消防2名、運転
手1名、調理師2名、
学校助手1名の合計12
名である。
採用は12名を計画し
ている。

保育所工事費
300万円の内訳は

Q 保育所工事費補正
予算300万円の
内訳は何か。

A 上原保育所は築後
29年経過。内装が
老朽化し、ひび割れし
ており、補修する。

Q 園児の安全対策の
点からも適切に対
応せよ。

14保育所全体の調査
を行い、保育所の修繕・
改築をどうすべきなの
か、長期的な視点も踏
まえて、十分協議せよ。

A 保育所検討委員会
では「将来、1小
学校区1保育所を目指
す」と答申している。

老朽化し、改築の必
要なところから順次統
廃合を進めて行きたい。
しかし、園児の安全
対策は最優先であり、
14保育所全体を調査し、
危険箇所の修理を行う。
平成19年度は、吉原
保育所が老朽化し、園
児12名と少人数である
ことから休止とする。
舟見、野中保育所の
老朽化による改築につ
いても、今後検討を進
めたい。

吉原地区の海岸に
トイレ設置

Q 吉原地区の海岸に、
公衆トイレ設置と
ある。内容を説明せよ。

A 民有地に総事業費
480万円で地域
の皆さんが進める。維
持管理も地元で行う。
一般コミュニティ事
業助成（宝くじ助成）
として、限度額250
万円の助成である。



内装が補修される上原保育所

食育推進委員は斬新な組織に

斬新な組織をつかって欲しい。

Q 食育推進会議条例の制定には賛成であるが、推進委員の選考には専門知識のある、

A できるだけ町を網羅した考えで、各団体の代表という訳ではなく、食育に関わりのある方から選びたい。

医療制度改革で障害者への影響は

Q 65歳以上、中度で現役並み所得者は1割負担、軽度で3割負担となる。町内で影響を受ける人は何名か。

A 中度7名、軽度3名であり、10月からの国の医療制度改革への対応である。

Q 軽度でも寝たきりの人は、町長が認定すれば中度の対象となるのではないか。

A 現在、町内では該当者はいない。

後期高齢者の現役並み所得とは

Q 10月から75歳以上の後期高齢者医療費は、現役並み所得者が3割負担となった。現役並み所得とは。

A 145万円以上の課税所得のある人が対象となる。

標準的モデルとして、単身者の給与と年金合計で382万円、夫婦では520万円以上の年収のある世帯。また、一時所得があったときはその年だけ対象となる。

こんな意見も

◎今回、減債基金繰入金の減額を行った。

これによって今年度は財政調整基金、減債基金ともに取崩しをせずに済んだ。

財政運営が健全に行われている証として、当局の努力を高く評価する。今後も健全財政の堅持に努めよ。

◎入善中学校体育館棟の耐震補強・大規模改造工事前倒しを評価する。

子どもたちの安全安心のためにも早期の整備を望む。

◎医療制度改革により制度の変更点がわかりにくい。早期に情報をつかみ、住民にわかりやすく説明せよ。

◎地域農業担い手育成補助金を希望する法人は多いが、順番が回ってこないとの声がある。

町からも県に働きかけて欲しい。

◎2年後に75歳以上の後期高齢者の保険は、独立した組織になる。高齢者には過酷な負担となる。委任払い制度などを継続せよ。

◎140名の臨時・パート職員がいる。労働基準法に定める有給休暇など、きちんと対応してほしい。



改修される入善中学校体育館



大型コンバインでの刈取

ささやま 篠山市の合併成果を研修

総務・産業教育常任委員会の合同視察

合併で広域課題の解決を目指す

11月9日、10日の両日、2つの常任委員会合同で、兵庫県篠山市を訪ねし視察を行った。目的は市町村合併の現状と課題をみるためである。

篠山市は7年前に多紀郡の4町（篠山町、西紀町、丹南町、今田町）が合併してできた市。人口4万7000人弱、面積は約377平方キロ（入善町の約5倍）で、低い山々に囲まれ、田園が広がる



篠山市役所で説明を受ける

市である。

同市は、上水道などの水資源開発、斎場、清掃センターの改修など、早急に対応する広域課題があり、合併による財政基盤の強化と自治能力の向上が必要であった。

合併特例債で借金増

課題の早期解決のために10年の計画を5年に圧縮し、合併特例債約155億円を使って、総額300億円超の様々な事業に投資した。合併前は人口6万人

を見込んでいたが、人口減は止まらない。また、小学校数を19校から13校に減らす計画もなかなか進まない現状である。

その結果、篠山市の歳出総額約245億円のうち、借金返済額は53億円になった。

今後篠山市は、合併による優遇措置が終了することで、地方交付税が20億円減らされる。総務部参事は「起債の償還で厳しいものがある。予想外の三位一体改革で数字的に厳しくなった。さらに交付税の減で二重三重の厳しさだ」と述べた。

合併して良かったが37%

合併から4年後に市民にアンケートをとったところ、合併して良かったが37%、良くなかったは14.2%、どちらとも言えないが41%の結果であった。総務部参事によれば、

合併して良かった点は、次の通りである。

- ・どこでも住民票がとれる
- ・福祉的事業など専門的なものが充実した
- ・議員が58名から22名になった
- ・日常的に境界がなく便利になった

また、悪くなった点を次のようにあげた。

- ・国保料金、上・下水道使用料が引上げられた
- ・役場が遠くなった
- ・職員と住民とのつながりが薄くなった

視察を終えて

12月20日付けの新聞紙上では、地方財源に関連し、次のような記事が載っていた。

「黒豆、乳牛で知られる篠山市が、地方債務残高が一般財源の3.8倍に達し、全国約750市の下から5番目になった」

篠山市は、参画と協働による「まちづくり条例」も制定した。市民一体となって全国に聞こえる「丹波の篠山」を盛り上げ、この難関を突破していただきたい。



篠山市役所の全景

新年度予算編成基本方針と重点施策を示せ 町長 安全で安心、自助、共助のまちづくり



将来どうなる北陸本線

問 新年度予算編成の基本方針とその重点施策を示せ。

米澤町長 新年度は町の未来に向かって新たに挑戦する年と考えている。

歳入では企業の固定資産税の増、法人、個人所得の伸びによる住民税の増、しかし、交付税など依存財源の大幅な減を見込む。

町民との協働の視点から選択し、質の高いサービスを提供する。

安全・安心、自助・共助のまちづくり。行財政改革の着実な推進などに重点を置く。

ハード面では「うるおい館（仮称）」の建設、スマートICの整備、入善中学校耐震補強・大規模改造工事などを進める。ソフト面では、防災・防犯組織への活動支援、リーダー養成、森林の保全再生、企業誘致や雇用

対策などに取組む。

首長の多選について町長の意見を聞く

意見・進言を踏まえ是非々々で施策に当たる

問 自民党は前福島県知事の汚職事件をきっかけに、4選以上は推薦しない方針を決定した。権力の座に長くあると腐敗行政が発生し易くなるとの指摘がある。本町でも過去に多選のもたらした「弊害」があった。多選禁止について町長の意見を聞く。

町長 多選の功罪について、多々議論もある。3期目の所信で「公平・公正を基調に町民の目線に

立った政策の実行」と信条を述べた。

常に初心の気持ちで、独善的傾向に陥ることなく、議会、町民、職員の見解を踏まえながら、是非々々で施策に当たっていく。

並行在来線の経営形態をどうするか

対策協議会で検討してゆく

問 並行在来線の経営がJR西日本から分離され、第3セクターで存続させる方針であるが、全国の第3セクターはいずれも赤字である。第3セクターの経営形態は県単独か複数県か。またJR西日本からの鉄道資産の譲渡などに備え、対策基金の創設が必要ではないか。

本多助役 県では昨年7月「富山県並行在来線対

策協議会」を結成し、経営分離後の在来線のあり方について検討を始めた。

将来の輸送量を踏まえた経営計画調査に取組み、経営見通しや経営形態、出資金などについて協議会で検討していく。

地域住民に不利益が生じないよう協議会でしっかり要望していく。

公共工事の入札制度の改善を検討すべきだ

一般競争入札の試行的導入を検討

問 本町公共工事の落札金額が95%以上であり、町民の疑問が多い。透明性ある入札方法を検討すべきと思う。

また、民間人を加えた入札制度審議委員会を設けてはどうか。

助役 一般競争入札の試行的導入を考えてみたい。審議会も十分検討したい。



大林 政雄 議員

子どもからおいしい給食を奪うな

総務課長 共同調理方式の試行結果を踏まえて協議



九里 郁子 議員



給食の香りただよ調理室

るために、あくまで共同調理方式を強行するのか。学校給食検討委員会の今後の計画はどうか。

西川総務課長 黒東小学校では改修期間中、飯野小学校で共同調理し運んだ。この結果を踏まえて協議される予定である。

問 共同調理と自校方式との違いは全然なかったと言えるか。
子どもからおいしい給食を奪うのでなく、今の自校直営方式の堅持が食育推進ではないか。

小森教育委員会事務局長 暑い時期だったので、和え物やサラダに動物性タンパク質の使用を控えた。積極的に食育推進に取組みたい。

問 当局は、「うるおい館（仮称）」には当初より3億円以上も膨らませる一方で、年間2000万円の給食関係予算を削

クマ・サル対策抜きに安心・安全はない

県・町主体で森林再生事業を行う

問 住宅地にクマが出没するなどなかった舟見地区で、クマに襲われ人命が奪われた。地域住民にとってはクマ・サル対策抜きに安心・安全は語れない。

里山、奥山など計画的な森づくり対策が必要ではないか。
町長 今後もより迅速に、巡回パトロール、広報活動、対策本部の設置などの対応で取組みたい。関係機関、地元住民、森林組合などと協議しながら

進めたい。
来年度から、県主体の「みどりの森再生事業」と町主体の「里山再生整備事業」を行う。地域の合意形成が必要であり、相談しながら進めたい。

障害者自立支援法は障害者の自立を阻む

福祉サービスの継続にはやむを得ない

問 障害者自立支援法で、福祉サービス利用料が原則1割となり、障害者の生活や子どもの発達に深刻な影響を与えている。施設は報酬単価の引き下げ、支払い方法が日割り計算になり、経営が厳しくなっている。

1割負担を撤回するべきである。

笹島健康福祉課長 公的な障害福祉サービスを継続するためにやむを得ない。

問 高齢者・障害者・母子世帯などへの屋根雪下ろしや、宅道除雪の助成制度は、弾力的に運用すべきである。

健康福祉課長 除雪助成金要綱を改正し、住民税均等割世帯を対象とし、県内に直系の子または子のみ対象外とした。

問 屋根雪下ろしには危険がとれない、災害補償対策が必要である。

健康福祉課長 有償の除雪支援は民間会社の傷害保険しかない。

問 高年齢者・障害者・母子世帯などへの屋根雪下ろしや、宅道除雪の助成制度は、弾力的に運用すべきである。

健康福祉課長 有償の除雪支援は民間会社の傷害保険しかない。

問 高年齢者・障害者・母子世帯などへの屋根雪下ろしや、宅道除雪の助成制度は、弾力的に運用すべきである。

農政改革初年度にどのように対応するか

農水商工課
班 長

担い手育成に力を入れ 集落全体で周知徹底する

問 戦後農政の大転換といわれる農政改革初年度に、どのように対応するか。

寺崎農水商工課班長 平成19年度から導入される



全国に発送されるおいしい入善米

「経営所得安定対策」は、「品目横断的経営安定対策」「米政策推進対策」「農地・水・環境保全向上対策」の3つの対策に分けて実施される。

町は、将来とも基幹産業の農業を担う、担い手の育成を最重要課題と位置付け、改革の内容の周知徹底を図る。

現在、担い手として位置づけられる認定農業者は、個別で76経営体、集落営農組織で13経営体の合計89経営体である。さらなる担い手を育成するため施策を強化する。また、兼業農家の理解を得て集落営農組織を設置できるように支援を行うたい。

呉東広域圏の商業施設の動向を把握しているか

平成9年以降、進出と撤退が繰返される

問 当局は、滑川市以東3市2町、人口17万人のエリアで商業施設をどのように把握しているか。

農水商工課班長 平成9年、黒部サティ進出以来、魚津市、滑川市でアピタ、プラント3など、進出と撤退が繰返されている。入善、朝日でも、消費者ニーズを取込んだ新しい経営感覚のある店舗が増える傾向にある。町においては、12月に国道8号バイパスが開通

することにより、新たな商業ゾーンが生まれる可能性もある。

今後大型店の進出動向を見極めながら、経済効果、雇用、税金、さらに生活、環境に与える影響など、総合的に判断していきたい。

バイオ燃料の導入促進対策を考えているか

みな穂農協管内で菜種を作付けしている

問 バイオディーゼル燃料が話題となっている。町の方針はあるか。

農水商工課班長 現在、転作田を利用して、みな穂農協管内で菜種油を採取するため、13鈔作付け

している。

バイオマスの利用について関係機関と協議会の設置や支援策を検討したい。

がん対策基本法に対する町の基本方針を問う

予防および早期発見に取組む

問 がん対策基本法が制定されたが、町の取組みを示せ。

町長 今年6月、基本法が制定された。死亡第1位はがんであり、町としても、早期発見のための検診と生活習慣の改善に重点を置いた予防運動に取組んでいる。



本多 幸男 議員



谷口 一男 議員

経営安定対策の用件を満たす 農家の現況と今後の対策は

**町長 担い手農家89の経営体で、
町水田面積の半分弱。育成に努める**

問 本年産米の作況指数
全国平均が、やや不良の
96で確定した。

富山県は、全国2位の
102でやや良。しかし、
佐賀県のように潮風害で
49の大凶作の県もあった。

日豪自由貿易協定（F
TA）の締結交渉に不安
を抱きながら、19年度か
ら「経営所得安定対策」
がスタートする。

同対策の加入用件を満
たす農家、集落営農、認
定農家の現在の状況はど
うか。

町長 集落営農組織や担
い手農家に重点をおいた
対策であり、入善町水田
農業推進協議会や、みな
穂農協の担い手担当職員
と協力し、座談会などを

中心に推進してきた。

現在は、担い手農家89
経営体である。うち集落
営農組織13団体、個別経
営体は有限会社を含め76
経営体。本町水田面積の
半分弱程度を耕作してい
る。

今後も、水田農業推進
協議会や生産組合長、営
農指導員、担い手担当職
員、アドバイザーなど関
係機関と連携を取り、啓
蒙、育成を図る。

問 国は、地球温暖化対
策の一つとして、エコエ
ネルギーの導入に取組み
だした。

みな穂農協も菜の花を
試験的に取入れたと聞く。
町はどのように考えて
いるのか。

町長 みな穂農協が食用
及び農業用機械の燃料と

して使用するため、菜の
花を試験的に取入れた。
地球温暖化対策として
も、これらの進展、状況
を踏まえながら、支援策
についても検討していく。

深層水と入善産米を
使って焼酎を
関係団体に協力を要
請しながら検討

問 深層水と入善産米を
使って焼酎を造り、その
絞り粕を堆肥にして水田
に還す循環型社会の構築
を考えたかどうか。

町長 深層水と入善産米
を使い、絞り粕をほ場に
還元するということは、
一石二鳥にも三鳥にもな
り大変すばらしい。

先般、東京で「とやま
海洋深層水フォーラム」
が開催された。翌日職員
がアサヒビール本社を訪
ね、「深層水で焼酎を造っ
て欲しい」と依頼し、検
討をしていただくようお
願いしてきた。

今後も、関係団体に協
力を要請しながら検討を
していきたい。

全農家個数と水田面積	2,100戸	3,730㌥
担い手農家合計と総経営面積	89経営体	1,687㌥
認定農家経営体数と水田面積	76経営体	1,024㌥
集落営農経営体数と水田面積	13団体	
4㌥以上の耕作経営体	66経営体	971㌥
4㌥以下の耕作経営体	23経営体	53㌥
担い手農家が請け負う転作面積		663㌥

平成18年転作作物とその面積（合計1,081㌥）

飼料	大麦	大豆	地力作物
10	71	575	286
球根	スイカ	その他	
28	8	103	

平成19年度経営所得安定対策申し込み状況
大麦作付け 130ヘクタール

「地球温暖化防止」県の宣言も含め

町としての活動は

町長 ISOの活動を保育所・施設などへと広げている



買い物には「マイバッグ」で

量を6%減らす国民運動が展開されている。室温を暖房は20度、冷房28度に設定など、6つの取組みが展開されている。

これに加え県では「公共交通機関を利用する」など4つの活動を示し、「とやまエコライフ・アクト10宣言」として本年8月に開始した。

町はISO14001の取組みを中心に、エネルギー使用量などの削減目標を決め、庁舎全体で積極的に取組んでいる。保育所、施設などへも活動を広げている。

地球環境に優しい活動を、町民の皆様にも協力いただけるよう努める。

問 「地球温暖化防止」が環境省からスタート。「県のとやまエコライフ・アクト10宣言」も含め、町の取組みを示せ。

町長 CO₂ガスの排出

いじめに対する対処と指導は

子どもたちの人格を尊重し認め合うこと

問 教育再生会議の提言では「いじめを見て見ぬふりをする者も加害者として指導する」とある。教育委員会はどのように対処するのか。

町でも、いじめは数件あると聞いた。解決方向に向かっていっているといるが、どう指導したか。米島教育長 いじめによる児童生徒の自殺が相次ぎ、大きな社会問題となっている。

相談電話の設置、中学校にはカウンセラー1名、

カウンセリング指導員1名、心の相談員3名を配置し、いじめ予防・解決にあたっている。

教育委員会では校長研修会を経て各学校で研修を深め、指導力の向上に努めている。

教育センターに「いじめの問題対策チーム」をつくりたい。

いじめ対策は学校のみ任せず、家庭・社会が総がかりで取り組む必要を痛感している。

児童生徒の「生きる力」を育み、家庭や学校、地域において子どもたちの人格を尊重し、認め合うことが、いじめ防止の原点と思っている。

外国人居住者による問題点の解決を

個人を尊重し、互いの文化の理解を深める

問 現在468名の外国人が居住している。

ごみの問題、路上での飲食など問題点がある。

町から企業側と話し合った結果はどうであったか。出前講座、交流会などを開いてはどうか。

田中住環境課長 国籍別では、42%がブラジル、31%が中国、21%がフィリピンで3カ国で全体の94%を占めている。多くの方は町内企業への就労による居住だ。

ごみの出し方については、看板に中国語・ポルトガル語・英語で表示し、各地区ステーションに設置した。

来年早々には、外国人向け生活ガイドブックが完成の計画である。

企業や人材派遣会社とごみの出し方の説明会を行う計画にしている。

住民・企業・行政がともに協力し、外国人との交流会を開き、個人を尊重し、互いの文化の理解を深める。



大橋 美椰子 議員



松田 俊弘 議員

新たに始まる75歳以上の保険制度は 過酷な保険負担ではないか

健康福祉課 課長

適正な負担で給付を受ける制度

を支払わされ、年平均7万4000円の保険料は、年金から引かれる。

高齢者にとって過酷な負担と考えるがどうか。健康福祉課長 低所得者の保険料は軽減することになっている。

後期高齢者が、適正な負担の上で給付を受けるという制度の趣旨である。

所得税・地方税で要介護者に障害者控除を

他市町を参考に検討する

問 平成20年から75歳以上の高齢者は、今の健康保険から脱退させられ、独立した保険に移る。家族に扶養されている高齢者も、新たに保険料



焼却場と旧埋立て地

問 所得税・地方税でも、市町村長が、65歳以上で障害者に準ずる者と認めれば、障害者控除を受けられる。

町でも、要介護者が障害者控除を受けられるようにすべきだ。

町長 現行の寝たきり高齢者認定は継続し、その他の認定基準などについては、他の市町村の動向を踏まえ、検討したい。

町の責任で全小中学校下に「学童保育」を

子どもたちの居場所を確保していく

問 政府は、「子どもか

がやき教室」と「学童保育」を一体的あるいは連携して推進するとした。

2つの事業は役割が異なり、それぞれで実施、運営すべきだ。

「学童保育」は、町の

責任で早期に全小学校下で実施し、希望者全てが受けられるようにすべきだ。

教育長 「子どもかがやき教室」または「学童保育」のいずれかを選択しながら、子どもたちの居場所を確保していくことが大切である。

桃李小学校では、地域の要望を受け、学童保育の設立に向けて協議に入っている。

旧焼却場の焼却灰の将来的な安全確保を

埋立地の管理は国の基準を満たしている

問 朝日町三枚橋にある旧焼却場の解体では、環境調査の地元要望はどう

反映されたのか。

残されている2万㎡の焼却灰を含む土砂の将来的な安全を、どのように確保するのか。

鍋谷企画財政課長 古黒部、月山で大気調査を追加実施する。水質調査では、舟川沿い用水の水路分岐部、月山用水と古黒部用水の取水口で調査する。

埋立地の管理については国の基準を満たしている。広域圏は平成12年から地下水の調査を行っているが、全てにおいて環境基準を大きく下回っている。

昭和48年から埋立てているが今までも問題はなく、何かあれば広域圏で対応する。

クマ被害による今後の対策は

農水商工課 事故を教訓として最善の方法を協議

問 10月26日未明、舟見市街地にクマが出没、死亡事故が発生した。

今回のクマ被害の教訓で何を得たのか。一過性の問題としてはならず、今後の対策を問う。

農水商工課班長 クマの有効対策として、「柿の木の除去」、「里山、前山の整備」、「実のなる木の植栽」、「防護柵の設置」などがある。

今後は舟川周辺の里山整備、また猟友会員の高齢化もあり、新規に狩猟資格者の育成も進めたい。今回の事故を教訓として、最善の方法を、関係機関、地元の方々と協議して進めていきたい。

民間と一体となって町の魅力を発掘せよ
民間の自主事業掘り起こしに取組む

問 入善の魅力を体系的に整理し、町内外に情報発信するなど、施策に反映させる考えはなにか。

また、民間と一体となって町の魅力を発掘してはどうか。
町長 町政バスターンや、ホームページで情報発信を行っている。



楽しく「どでカポチャおどり」

今後は入善スマートICでのPRや関東、関西の都市圏への情報発信にも取組む。

今後の課題では、住民が独自の地域おこしに取組むなど、まちづくりや地域づくりにつなげてい

くことが大切。

民間による自主事業の事例も見られることから、このような活動の普及促進に努めたい。

町では「未来のまちづくり事業」を制度化しており、これにより民間の自主事業の掘り起こしに積極的に取組む。

黒東小の給食共同調理の全体的な評価は

ほぼ問題なく順調に実施できた

問 黒東小学校体育館の耐震工事にともない、学校給食は飯野小学校で調理し、配送する臨時的な共同調理が行われた。

児童をはじめ関係者の反応はどうであったか。
今回の共同調理について全体的な評価は。

教育長 黒東小学校での配送給食について、児童にアンケートを行った。

調査では、給食の味について「以前と変わらないうい、またはおいしくなった」が全体の約7割を占めた。

給食の温かさ、冷たさについては、ほとんどの児童が「変わらない、またはちょうどよかった」と答えている。

二重食缶を使用したことが、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供することができた。

今回の配送給食は、町として初めての試みであったが、トラブルもなく、アレルギーへの対応についても、今までどおり行うことができ、ほぼ問題なく順調に実施出来た。



鬼原 征彦 議員

長男の誕生で入善の良さを再認識

入善町に移り住んで



村上宏樹さん 32歳

入善町桐山在住

就職を機に入善へ来て早8年。多少ビミョーではあるが、地元の人と間違えられるほど、入善弁で会話ができるようになった。

就職、結婚、そして長男の誕生と、人生の一大イベントをこの入善町で行った。子どもに対しては「健康に育ててほしい」「さまざまな機会を与え、可能性を広げてあげたい」という気持ちを持っていく。自分が親になり「子どもを育てる環境」として入善町を見た時に、あらためて気づいた良い所がある。

一つは、私の地元、米どころ山形にも勝る水のおいしさ。全ての基礎となる水が良質であることは、食の安全性について見直しされている現在での強みである。最近よく耳にする「食育」に関しても、率先して取り組んでいるこの町で、

子どもを育てられることは大変嬉しい。

もう一つは、質の高い芸術文化に触れられる機会が得られること。先日、コスモホールで行われた東儀秀樹のコンサートには感動したが、聞けば、これまでもさまざまな一流の音楽家による演奏会が行われていたとのこと。また、ベーゼンドルファーのピアノを誰でも弾くことができるのもいう。下山芸術の森の企画展にも興味深いものが多い。富山県は教育県との認識があったが、学業だけでなく、文化芸術面においても恵まれた環境にあることは、忘れてはならない良さである。子どもと一緒に名曲・名画鑑賞できる日を今から楽しみにしている。

入善のむかし話

(森 清松編より)

寒の神祭り

邑町では、正月の十五日に、寒の神祭りをします。この祭りは、子どもたちが、川に流れた木偶(木彫りの人形、神さまの生まれかわり)を持って、「さーいの神じゃ 大神じゃ

じいも ばあも ばくばくじゃ
来年もーきゃー 十三じゃ
女うんだら しょうぶした
男うんだら そーそー そだて」

と、はやしながら、家々をまわり、豆、もち米、正月のおかざりなどを集め、おかざりは青竹を組んだ左義長といっしょにもやし、米や豆は、いりがしをつくって、ふたたび家々へくばるものです。それを食べると、無病息災、家内安全はまちがいなしといわれています。

むかしは、十五才になった男の子が、一人前になって農業に精を出すという、ちかいをこめて、この祭りをつづけていましたが、いまは、小学校六年生までの子どもがうけついでいます。



おかざりを集める子どもたち

編集の窓

謹賀新年。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

国の三位一体改革により、厳しさを増すなか、議会と当局は車の両輪として、町民福祉の充実と向上に全力をあげてまいる所存です。

さて昨年はサンリッツの採業、スマートICの本格実施、国道8号バイパス入善区間の開通など、明るい話題がありました。

一方、クマの出没による痛ましい災害が発生したことは、安全・安心をめざす町にとって残念であり、自然界の警鐘とも受け取れる出来事でした。本年も「議会だより」が、議会と町民の架け橋となるよう、更に工夫してまいります。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 元島 正隆 |
| 委員長 | 松澤 孝浩 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 大橋美椰子 |
| " | 長田 武志 |
| " | 中瀬 範幸 |
| " | 鬼原 征彦 |